

2022年度 城南学園中学校・高等学校 学校評価のまとめ

1 自己評価

(1) 組織 学校評価委員会（校長、高校教頭、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭）

(2) 開催 2023年3月2日（木）

(3) 評価のために使用した資料

① 2022年度学校教育診断の結果（概要は資料1）

・実施：2022年12月

・対象：中学校・高等学校の全生徒、在校生の全保護者、全常勤教員

② 生徒による授業評価の結果

・第1回：2022年7月

・第2回：2022年12月

③ その他

・「2022年度 教育の基本方針と取り組みの重点」（資料2）、校内各組織の総括（目標の達成状況）、生徒収容状況、進路決定状況、出席統計、部活動入部状況・活動実績等

(4) 内容

① 上記資料をもとに、年度当初に教職員に示した「教育の基本方針と取り組みの重点」（学校教育目標）について自己評価を行った。（下表）

② 自己評価に基づき学校関係者評価委員会の資料を作成した。

(5) 自己評価の結果（3月末時点で修正）

目標と取り組みの重点（P）	取り組みの状況（D）	自己評価（C）
<p>1 学校の全体像に関わって</p> <p>① 10年先を見通した学校の将来像について検討する。</p> <p>② 高校において再編成したコース体制を軌道に乗せる。</p> <p>③ 建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。</p> <p>④ 一人一台タブレットを活かした教育を推進するとともに、業務</p>	<p>① 各校種連携や高短・高大接続、卒業生への広報戦略などについて議論。教員が本来の教育活動に専念できるよう、業務改善に着手。AI教材の本格的導入に向けた準備。</p> <p>② 再編したコースの特性に合わせた新たな教育課程に沿った教育を実施。再編したコースの特性を踏まえた総合的な探究の時間の活用。</p> <p>③ 中学校の「10×10プラン」の実施。各コース、学年の当初目標に「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を掲げ、取り組みを進めた。</p> <p>④ タブレットを用いた授業についての意見交換。</p>	<p>① 前進した</p> <p>② 概ね達成した</p> <p>③ 前進した</p> <p>④ 概ね達成した</p>

<p>の改善を図る。</p> <p>⑤生徒の健康と安全、学業との両立、働き方改革等の観点から部活動のあり方を検討する。</p>	<p>教育プラットフォームのさらなる活用（欠席連絡等）。</p> <p>ファイン・システムを用いた学習指導、進路指導の実施。</p> <p>タブレット活用によるペーパーレス化の推進。</p> <p>⑤「学校の部活動に係る活動方針」は公表に至らず。</p> <p>外部指導者を増員。</p>	<p>⑤前進できず</p>
<p>2 学力の向上と進路実現100%をめざす (評価指標) 模試の結果向上 進路実現率前年度以上</p> <p>①言語活動の充実など授業の改革を進めるため、教科における研究活動を活性化し、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。</p> <p>②新学習指導要領の趣旨に沿った授業の充実に努める。探究学習についてもブラッシュアップを図る。</p> <p>③適正な観点別評価を行い、生徒の学習意欲向上を促す。</p> <p>④英語教育の更なる改善・充実を図る。</p> <p>⑤生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を拡充する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携を深める。</p>	<p>模試の結果、教科、コース等で分析行った。中学校、高校特進系はベネッセの方にも分析を仰いでいる。 進路実現率は100% (昨年度比+1.2ポイント)</p> <p>①各教科が研究授業を実施。期間を設定して相互の授業参観を行った。</p> <p>②各教科で新学習指導要領に基づいた授業を研究し、実施。 特進コースで導入していた学術探究「アカデメイア」に加え、技術探究「ポリテクニク」を導入し、高校全コースに探究学習を拡大。</p> <p>③観点別評価を導入し、教務部を中心に検証。従来の評価では見えない生徒の多様な資質や能力に注視し、生徒の学習意欲向上に繋げるよう努めた。</p> <p>④ネイティブによるスピーキングテストを考査ごとに実施。 オンライン英会話を希望者に実施。 英語暗唱弁論大会「FIGHTERS」を実施。 コロナ禍においてニュージーランド語学研修が実施できないため、河内長野セミナーハウスにて代替行事を実施。</p> <p>⑤中学校の「10×10プラン」、総合的な学習の時間等。 特進コースの「アカデメイア」、他コースを含めての「ポリテクニク」。 幼児教育福祉・幼児教育コースのインターシップや発表会、造形コンテスト等。 進学スタンダードコースのゾーン学習や進ス</p>	<p>学力向上はコースで差がある 進路実現率は100%を初めて達成した</p> <p>①前進した</p> <p>②概ね達成した</p> <p>③概ね達成した</p> <p>④前進した</p> <p>⑤概ね達成した</p>

<p>⑥基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。</p> <p>⑦3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。</p> <p>⑧中高六年一貫教育の強化に努める。</p> <p>⑨国公立大学と関関同立の合格者10名(実数)以上、大阪総合保育大学への進学者10名以上、大阪城南女子短期大学への進学者50名以上をめざす。また、特進コース∞、特進コース看護系生徒の希望進路の実現に努める。</p>	<p>タセミナー等。 英語暗唱弁論大会「FIGHTERS」。 学園内及び近畿大学、帝塚山大学、森ノ宮医療大学、東住吉森本病院等との連携。</p> <p>⑥学習時間調査を実施(教育プラットフォーム活用)。 手帳、教育プラットフォームの活用。</p> <p>⑦当初の指導計画通りに実施した。</p> <p>⑧中学校会議に高校特進コース教員が参加、高校特進コースの会議に中学校教員が参加することにより相互理解を深めた。 アカデメイア・FA・ビブリオバトル・自習合宿での生徒交流を図った。</p> <p>⑨国公立大学と早慶上理、関関同立に10名(実数)が合格。 大阪総合保育大学に9名進学。 大阪城南女子短期大学に37名進学。 特進∞の卒業生中、6割が国公立大学に進学。 特進看護の卒業生中、4割が看護系大学・学部に進学、6割が看護系専門学校に3名進学。</p>	<p>⑥前進した</p> <p>⑦前進した</p> <p>⑧前進した</p> <p>⑨前進できず</p>
<p>3 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底 (評価指標) 学校教育診断の結果80%以上 欠席・遅刻率の低下</p> <p>①朝の読書活動の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。</p> <p>②年間重点目標として「挨拶」を掲げ、全教職員で指導することにより、生徒の自発的な挨拶を促す。授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基</p>	<p>学校教育診断の結果 「校則を守り、規則正しく生活している」 中学生79%、高校生79%、教員66% 中学生保護者92%、高校生保護者84% 欠席・遅刻率 中学生は欠席率悪化、遅刻率やや悪化 高校生は欠席率変わらず、遅刻率やや悪化</p> <p>①一年を通じて「朝の読書」を実施。 全校でビブリオバトルに取り組むとともに、代表者が校外のビブリオバトルにも出場し、入賞。</p> <p>②生徒指導部が中心となり、朝の挨拶を実施。 定期的に全教員で登下校指導等を実施。 全校全校生徒にネットマナー、薬物乱用防止について外部講師を招き指導。 学年、生徒指導部で欠席・遅刻指導。</p>	<p>保護者は達成 生徒は概ね達成 教員は達成できず 欠席率、遅刻率は中高ともに達成できず</p> <p>①前進した</p> <p>②やや前進した</p>

<p>本的生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席・遅刻の減少に努める。</p> <p>③学校行事における生徒の主体的取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を、新型コロナウイルス対策を十分に講じたうえで促進する。</p>	<p>③引き続きのコロナ禍の中ではあったが、行事は概ね通常に近い形で実施することができた。</p> <p>学校教育診断での関連項目（「学校行事は、みんな楽しく行えるよう工夫している」、「本校の自治会活動は活発である」「本校の部活動は活発である」）は概ね高水準を維持。</p> <p>(部活動参加率)</p> <p>中学校 94% (昨年度比+3ポイント)</p> <p>高校 48% (昨年度比-5ポイント)</p> <p>(中学校の部活動)</p> <p>テニス部、空手道部が全国大会で団体準優勝。体操部が全国大会出場。バレーボール部が近畿大会出場。</p> <p>(高校の部活動)</p> <p>バレーボール部が全国大会に初出場し、ベスト16。テニス部、空手道部が全国大会出場。体操部は近畿大会で個人準優勝。ソフトテニス部、ダンス部が近畿大会に出場。</p>	<p>③前進した</p>
<p>4 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上 (評価指標)</p> <p>学校教育診断の結果80%以上 授業評価アンケートの結果</p> <p>①各教科で授業評価アンケートの結果も活用して授業の充実・改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。</p> <p>②すべての教育活動を通じて人権に関する教育の充実を図る。教育を受ける権利の保障、人権が尊重された教育を進めるために、特に、いじめの未然防止に努める。面談などを通じて生徒の状況把握に努め、相談等に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。</p> <p>③体罰、ハラスメントの根絶に向けた取り組みを徹底する。</p>	<p>学校教育診断の結果</p> <p>「授業内容に満足している」 中学生 89%、高校生 79%</p> <p>「入学してよかった」「入学させてよかった」 中学生 84%、高校生 80%</p> <p>中学生保護者 85%、高校生保護者 92%</p> <p>①授業評価アンケートの結果は昨年度に比べて向上した。 結果は教科にフィードバックした。 授業評価アンケートの設問を第2回から、より改善に役立つよう改めた。</p> <p>②3年間の計画に基づき、人権HR、人権教育映画、人権講話などを実施。 年3回の定期面談、いじめに関するアンケート調査を実施、いじめ防止対策委員会の開催等でいじめの防止に努めた。 学校教育診断の結果は、中学生、高校生ともに昨年度よりやや低下した。</p> <p>③生徒面談、教員面談等で情報収集することにより、防止に努めた。</p>	<p>概ね達成</p> <p>①前進した</p> <p>②前進できず</p> <p>③概ね達成した</p>

<p>④生徒の特性を理解し、生徒の声に耳を傾け、双方向的な対話の中から生徒の能動的な学校生活を支援する。</p> <p>⑤様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談等に丁寧に対応することで連携を深める。</p>	<p>④生徒指導部が具体的な指導の中で、「傾聴」を心掛け、部員を中心に教員全体に意思統一を図った。</p> <p>⑤教育プラットフォーム、学年だより、HP、年2回の懇談会などで連携を図った。学校教育診断での関連項目（「学校は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」「学校は、保護者の相談に快く応じている」）は昨年度よりやや低下。</p>	<p>④前進した</p> <p>⑤前進できず</p>
<p>5 中学校50名、高等学校230名の定員充足</p> <p>①広報活動の「見える化」を図る。</p> <p>②中学校及び高校各コースの取り組みを積極的に広報するとともに、学習成果の発表の場の公開に努める。また、生徒募集に有効な新たな取り組みを実行に移す。</p> <p>③部活動において、他との交わりを深め生徒募集に繋げる。</p> <p>④中学生の内部進学率の向上に努める。</p> <p>⑤入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に全教職員一人一人が強く意識して広報活動を推進する。また、広報活動への生徒の参画を一層促進する。</p>	<p>中学校33名、高校125名が入学予定</p> <p>①中学校訪問、塾訪問の報告書を全教員で共有。入試対策部・広報室と各コース長を含む教員団との間で情報交換会を実施。</p> <p>②生徒の学習成果の発表を兼ねた「コース説明会」を実施。高校の募集対策として、SNSによる発信を強化。HPのリニューアル。中学生にも制服オプションを導入。</p> <p>③小学生、中学生を招いての試合、合同練習を実施。「部活動体験」を実施。部活動優遇制度を新設。</p> <p>④担任以外の教員も生徒との面談を行った。32名中15名（47%）が内部進学（昨年度62%）</p> <p>⑤外部相談会において、他教員の協力を仰いだ。校内で開催する募集イベントへの生徒参加を強化。生徒広報部（オープンキャンパスサークル）を新設。募集イベントで、ダンス部・空手道部・吹奏楽部・茶道部の協力を得た。</p>	<p>中学校・高校ともに達成できず</p> <p>①前進した</p> <p>②前進した</p> <p>③前進した</p> <p>④前進できず</p> <p>⑤前進した</p>

2 学校関係者評価

- (1) 組織 学校関係者評価委員会
構成（敬称略）

大阪城南女子短期大学長・菅正隆〈委員長〉
城南学園小学校長・山北浩之
保護者会代表・阪口めぐみ
同窓会代表・新里陽子
地域代表・早苗順一

学校委員（校長、高校教頭、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭）

(2) 開催 2023年3月14日（火）

(3) 評価のために使用した資料

自己評価の結果及び学校評価委員会で使用した資料、学校関係者評価委員会設置要綱

(4) 内容

- ① 校長及び高校教頭、中学校教頭から、「2022年度 教育の基本方針と取り組みの重点」に沿って、自己評価の結果を報告し、質疑応答と協議を行った。
- ② 協議の内容を事務局で取りまとめた。（主な協議の内容は資料3）

3 今後の改善方策（A）

1 学校教育目標のマネジメントサイクルの推進

- 自己評価及び学校関係者評価の結果等をもとに、新年度の学校教育目標である「教育の基本方針と取り組みの重点」を策定し、年度当初に教職員に周知する。
- 学校教育目標を踏まえ、校内各組織が年度目標と実施計画を作成して取り組みを進める。
- 10月末にその進捗状況、2月末に達成状況の報告を求め、それを受けて年度末に学校教育目標の自己評価を行う。このマネジメントサイクルを効果的に運用することにより、高いレベルでの目標の達成をめざす。

2 主要教育課題に対する取り組み

(1) 学校の全体（未来）像に関わって

- ①長期的視点とともに中期的視点も持ちながら、学校の将来像を検討する。
- ②建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みを充実させる。
- ③ウイズコロナの中での効果的な教育の実現を目指す。
- ④一人一台タブレットを活かした教育の推進、業務の改善を行う。
- ⑤生徒への効果的な教育活動実現のための働き方改革を推進する。

(2) 学力の向上と進路実現100%をめざす

- ①研究授業や相互の授業参観を組織的に行い、教科における研究活動を活性化する。
- ②観点別評価を活用し、生徒の学習意欲を高める。
- ③英語教育の更なる改善・充実を図る。
- ④学園内外の教育機関・施設との連携によって拡充してきた生徒の体験的な学びを円滑に進めるとともに、学習成果の発表の機会を充実させる。
- ⑤基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じた指導を充実させる。
- ⑥AI教材を導入し、効果的な活用を目指す。
- ⑦進路指導部と学年、コースが緊密に連携して、1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- ⑧中高六年一貫教育の強化に努める。
- ⑨数値目標を掲げて学力の向上に取り組む。併せて目標達成のための具体的方策を検討し実施する。

(3) 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- ①朝の読書の徹底により、読書活動の活性化を図る。
- ②年間目標を掲げて全校で取り組む。欠席・遅刻については学年で数値目標を掲げて減少に努める。
- ③学校行事の企画段階への生徒の参画を進め、生徒の主体的取り組みを促す。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を促進する。

(4) 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- ①授業評価アンケートの結果を教科、当該教員にフィードバックすることで授業の充実改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。
- ②新しい生徒指導提要に基づいた生徒指導の実践を行う。
- ③すべての教育活動を通じて人権教育を推進する。特に、面談やアンケート調査などによって生徒の状況を把握し、いじめの未然防止と早期発見に努める。また、生徒の相談に丁寧に応じることで生徒と教員の距離を縮める。
- ④体罰、ハラスメントの根絶を目指す。
- ⑤様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談に丁寧に対応することで、教育方針や教育内容への理解を図る。

(5) 中学校及び高等学校の定員充足

- ①広報活動の「見える化」を図る。
- ②中学校および高校各コースの取り組みの広報と、学習成果発表の場の公開を推進する。また、効果的な生徒募集の取り組みについて検討し実施する。
- ③部活動において、他との交わりを深め、生徒募集に繋げる。
- ④全校を挙げて内部進学率の向上に取り組むとともに、内部進学を促進する制度面の検討を行う。
- ⑤入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に、全教職員による広報活動を推進する。また、広報活動への生徒の参画を促進する。

4 参考資料

(資料1)

学校教育診断票の結果について

城南未来委員会

昨年十二月に実施いたしました「学校教育診断票」の結果について概略を報告いたします。

【データの回収】

生徒四三五名、保護者四二一名のデータを回収しました。特に保護者の皆様方には九〇%を超える回答をいただき、より信頼度の高いデータにすることができました。ご協力、本当にありがとうございました。

【保護者データ】

設問のうち、肯定意見（「よくあてはまる」「ややあてはまる」をあわせた意見、以下同様）が八〇%以上であったのは、中学では一八問中一七問、高校では一五問と、全体として高い評価をいただきました。特に、「学習評価は適切である」は、中学・高校とも九〇%台半ばの肯定意見をいただきました。最も気になる「入学させて良かった」でも、中学で八五%、高校で九二%の肯定意見をいただきました。

高い評価をいただいた中、「先生はいろいろな問題を見逃さず対応している」の肯定意見は中学が八〇%、高校が七七%で、他の設問と比べるとやや少ない結果でした。今後、さらなる改善に努めなくてはならないと感じております。

【生徒データ】

高校では、学年やコースによってばらつきがあるものの、全体としては一八問中一一問の肯定意見が八〇%以上でした。全国大会出場など昨今の部活動の活況を反映してか、「本校の部活動は、活発である」が九〇%を超える肯定意見でした。また、「生徒の進路・適性などに応じたカリキュラムになっている」「学習の評価（成績のつけ方）は適切である」「自分のクラスは楽しい」なども肯定意見が八〇%

台後半と高い評価を得ました。

中学は、一八問中一六問で肯定意見が八〇%以上、そのうち九問で九〇%以上と、高校をさらに上回る高い評価となりました。「学習の評価（成績のつけ方）は適切である」「本校の部活動は活発である」「学校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる」などは九〇%台後半の高評価でした。

一方で、他の設問と比較して評価が高くない設問もいくつかありました。「本校の生徒指導の方針は適切である」は中学・高校ともに肯定意見が約七〇%でした。

* * * *

今回の「学校教育診断票」で得られた結果を、学年・校務分掌・コースなど各部門で慎重に検討し、また過年度のデータを照合しながら、生徒の動向把握に教員全員で努めて参ります。そして、より高い信頼を得られる教育環境の整備に力を注いで参りたいと思っております。

保護者の皆様におかれましても、本校のこの姿勢にご理解をいただき、今後も変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（２０２３年２月発行の校報『城南第８５号』より転載）

（資料２）

２０２２年度 教育の基本方針と取り組みの重点

２０２２年４月６日
学 校 長

I はじめに

学校教育の目標は、生徒が将来、社会人として自らの使命を果たし、自らの幸福を実現できるよう、その基盤となる学力と健康な心身、さらには真に自立的な態度を育成するところにある。これは、本校創立者の設立の思いである「社会で活躍できる女性の育成」という言葉に集約される。本校の建学の精神である「自主自律」「清和気品」は、教育目標を達成するための具体的な指針である。われわれの教育活動が成果を上げるためには、本校の特色を鮮明にして全教職員が同じ教育目標「社会で活躍できる女性の育成」を共有することが重要である。よって本年度の基本方針と取り組みの重点を次のとおり策定する。

II 基本方針と目標

1. 将来、一人ひとりが社会的使命を果たせる生徒の育成を図る。そのため、中学校においては「10×10プラン」を推進する。高校においては各コースの特性を全面的に生かして多様な生徒に対応した教育を実践し、学力の向上と進路実現100%をめざす。
2. 生徒にとって生涯の基軸となる、よき生活習慣を身につけさせる。そのため「自主自律」の態度を育成するとともに、「清和気品」のマナーを徹底させる。
3. 教職員が相互に高め合う職場づくりを進め、授業の充実改善に努める。また、明るい学校づくりに取り組み、生徒・保護者の「学校満足度」を向上させる。
4. 全教職員が一丸となって広報・募集活動を強く推進し、中学校及び高等学校の定員充足をめざす。

III 取り組みの重点

1. 学校の全体像に関わって

- (1) 10年先を見通した学校の将来像について検討する。
- (2) 高校において再編成したコース体制を軌道に乗せる。
- (3) 建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。
- (4) 一人一台タブレットを活かした教育を推進するとともに、業務の改善を図る。
- (5) 生徒の健康と安全、学業との両立、働き方改革等の観点から部活動のあり方を検討する。

2. 学力の向上と進路実現100%をめざす

- (1) 言語活動の充実など授業の改革を進めるため、教科における研究活動を活性化し、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。

- (2) 新学習指導要領の趣旨に沿った授業の充実に努める。探究学習についてもブラッシュアップを図る。
- (3) 適正な観点別評価を行い、生徒の学習意欲向上を促す。
- (4) 英語教育の更なる改善・充実に努める。
- (5) 生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を拡充する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携を深める。
- (6) 基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。
- (7) 3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- (8) 中高六年一貫教育の強化に努める。
- (9) 国公立大学と関関同立の合格者10名（実数）以上、大阪総合保育大学への進学者10名以上、大阪城南女子短期大学への進学者50名以上をめざす。また、特進コース∞、特進コース看護系生徒の希望進路の実現に努める。

3. 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- (1) 朝の読書活動の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。
- (2) 年間重点目標として「挨拶」を掲げ、全教職員で指導することにより、生徒の自発的な挨拶を促す。授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的な生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席・遅刻の減少に努める。
- (3) 学校行事における生徒の主体的な取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を、新型コロナウイルス対策を十分に講じたうえで促進する。

4. 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- (1) 各教科で授業評価アンケートの結果も活用して授業の充実・改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。
- (2) すべての教育活動を通じて人権に関する教育の充実に努める。教育を受ける権利の保障、人権が尊重された教育を進めるために、特に、いじめの未然防止に努める。面談などを通じて生徒の状況把握に努め、相談等に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。
- (3) 体罰、ハラスメントの根絶に向けた取り組みを徹底する。
- (4) 生徒の特性を理解し、生徒の声に耳を傾け、双方向的対話の中から生徒の能動的な学校生活を支援する。
- (5) 様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談等に丁寧に対応することで連携を深める。

5. 中学校及び高等学校の定員充足

- (1) 広報活動の「見える化」を図る。
- (2) 中学校及び高校各コースの取り組みを積極的に広報するとともに、学習成果の発表の場の公開に努める。また、生徒募集に有効な新たな取り組みを実行に移す。
- (3) 部活動において、他との交わりを深め、生徒募集に繋げる。
- (4) 中学生の内部進学率の向上に努める。
- (5) 入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に全教職員一人一人が強く意識して広報活動を推進する。また、広報活動への生徒の参画を一層促進する。

(資料3)

2022年度 学校関係者評価委員会 主な協議内容

中高ともに、学力の向上や進路実現、建学の精神に基づいた教育の浸透、明るい学校作り等に向けて、様々な教育活動、取り組みをされており、その結果として生徒ならびに保護者の満足度が近年大きく上昇しているのが理解できた、という評価をいただくと同時に、コロナ禍にもかかわらず先生方が直向きに努力されたことに敬意を払いたい、とのお言葉も頂戴した。

とはいえ現状に甘んじることなく、更なる満足度上昇を目標として、総合学園の利点を活かした学園内他校種との連携強化、全国レベルで実績を残している部活動における全人教育の徹底、学習面における奨学生に対する指導強化、新しい生徒指導提要に基づく生徒指導の実践等の提言もいただいた。

そして、自己評価において低評価とした中学校から高校への内部進学率の問題については、「将来目指す職種に適した高校選択」、「部活動における他府県高校での活躍を目指して」など、本人にとって前向きな進路選択の結果としての外部進学であるのならば悲観的に捉える必要はないのではないか、との励ましの声もいただいた。

また、近年苦戦している生徒募集については、在校生の態度・様子が年々良くなっており、焦らず根気よく現在行っている取り組みを継続すべきだ、オープンスクール等に在校生も参画しているのは非常に良いことだ、という意見をいただくとともに、発進力の弱さも窺えるゆえ、これからも続けて押し寄せてくる少子化の波を視野に入れ、アグレッシブな変革も必要であろうという助言も頂戴した。